

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校 学校番号 26

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体の育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成	
2 評価する領域・分野	◇学校経営・運営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「お子様はよろこんで学校に行っている。」保護者91%、「本校に入学出来てよかったと思っている。」生徒94%が該当すると回答している。 ・「一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている。」生徒90%が該当すると回答している。 ・「本校では、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している」R4生徒62%→R5生徒71%に大幅に増加した。これはSDGsの取組として、地元企業と連携し、様々なボランティア活動に取り組んだ成果だと考えられる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校運営及び教育活動などに関して、学校運営協議会、連携企業・大学等及び保護者と連携を図り、外部からの意見等を適切に聴取する。また、外部への情報発信も行う。 ◇地域社会への還元や参画等といった社会貢献や地域創生に係る取組を、本校の特色ある学校づくりの一つとしてさらに推進していく。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での学びを将来の職業につなげるため、大学や地元産業界との連携をさらに強化し、地域に根差した特色ある学校づくりを推進するために、教務部、進路指導部、専門教育推進部が連携し学校運営に努める。 ・各分掌長が中心となり、学校運営協議会等により、学校経営や運営に関する意見や要望等を聴取する。 ・ICT推進チームと教務部が中心となり、ICTを活用した授業改善や学習機会の確保に努める。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 外部人材による教育力を活用した「ふるさと教育」等の取組 (2) 学校運営協議会等において意見や要望等を聴取する機会の設定	(1) 生徒の取組満足度と生徒による自己評価 (2) 協議会等における意見・要望事項を踏まえた実践	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 教科の枠を超え、大学や地元産業界と連携を図り、探究的な学びに向け、実践的な授業を展開した。 (2) 学校運営協議会等において、本校として育成すべき生徒像等について示唆を受けた。	(1) 外部人材を十分に活用し、活力ある学校づくりの推進につながっているか。 (2) 各外部委員から学校経営や運営にかかる意見や要望等を聴取できているか。	A B C D A B C D
11 成果 ○地元企業等との連携を重ね、ふるさと教育の充実を図ることができている。その結果として生徒が実践的かつ課題探究型の学びの経験を得ることができた。 ○ICTを活用した授業改善や学習機会の確保に加え、校務のICT化も進んでいる。 ・ ▲生徒からの職員に対する信頼は得ているが、授業の教授方法に不満を抱えている生徒が一定数いる。 課題 ▲多方面でICTを活用し、授業や校務等が効果的・効率的になるよう推進する。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業界等から、ビジネスで求められる資質・能力、業界の現状に関する聞き取りや、生徒向けの講演、企業見学などを行い、生徒に専門教育を学ぶ意義を理解させ、地域をフィールドとした実践的・体験的な学びにつなげる。 ・教員研修会の充実を図り、探究的な学びを実現するため、教師の実践力を培う研修に取り組む。 ・授業や校務の効率化を図るため、校内ICT推進チームによる教員研修の内容を充実させる。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月23日

【意見・要望・評価等】

- ・世の中が多様化・多角化・多面化している。少子高齢化が進み、世の中の仕組みが変わろうとしている。自分の価値観を広めていくことが必要である。
- ・人生100年時代と言われ、リスキリング・リカレント教育のように、学びに対して貪欲になれるような仕掛けづくりをしてほしい。